

今朝（6／9）某サイトニュースランキング表示をみてビックリしました。
こんなことがあるなんて…一斉に辞職って。そこでWEB報道部分などを整理
してみました。みなさんは、どう思われますか。「医療的ケアも教育」だと思いますが。

☆看護師 6 人一斉辞職 県立鳥取養護学校

日本海新聞 2015 年 6 月 9 日

<http://www.nnn.co.jp/news/150609/20150609065.html>

> 鳥取県立鳥取養護学校（鳥取市江津）の看護師 6 人全員が、5 月下旬に一斉に辞職し、医療的ケアを必要とする児童生徒の一部が通学できなくなっていることが 8 日、県教委や同校への取材で分かった。

県教委によると、同校に通う小学部から高等部まで 7 6 人のうち、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが必要な児童生徒は 3 3 人。同校は非常勤の看護師 6 人を配置して対応していたが、5 月 2 2 日、全員が一斉に辞職を申し出た。

看護師らは、吸引時間が遅れたことなどを理由に一部の保護者から厳しい指摘が繰り返しあったと説明しているという。

入院中などの児童生徒を除き、医療的ケアを必要とする児童生徒のうち 2 1 人は保護者が付き添って登校しているが、9 人は通えず、自宅や福祉施設のデイサービスで過ごしている。このうち訪問教育を希望する 4 人には、教員がデイサービス先で授業を行っている。

…などと伝えています。

☆養護学校の看護師辞職を説明

NHK ニュース 鳥取放送局 06 月 08 日 19 時 00 分（動画配信されなくなってます）

<http://www3.nhk.or.jp/news/tottori/4045312811.html>

> 県立鳥取養護学校で、医療的なケアを行う看護師全員が一斉に辞職したため子どもたちの一部が通学できなくなっている問題で、県教育委員会は辞職の理由は保護者からの要望を組織として受け止める態勢が不十分だったことなどとする聞き取り調査の結果を県議会に報告しました。

鳥取市にある県立鳥取養護学校には医療的なケアが必要な児童・生徒が通っていますが、6 人いる看護師全員が一斉に辞職したため、先月下旬から一部の子どもたちが通学できなくなっています。この問題について、県教育委員会は、8 日開かれた県議会の総務教育常任委員会で説明しました。

それによりますと、教育委員会の聞き取りに対して、看護師は辞職の理由について▼ケアを行う時間が予定より遅れたため保護者から非常に厳しい指摘を繰り返し受けたことや▼保護者の要望を組織として受け止める態勢が不十分だったことを挙げたということです。

また、教育委員会は今後の対応として▼当面は県立中央病院から看護師の派遣を受けることや▼保護者の要望を組織として受け止める態勢を整備していく方針を示しました。

一方、今回の問題については保護者からも事情を聞くなどして調査を継続していくと説明しました。

これに対して議員からは「保護者対応のトラブルが増えているので一定のマニュアルなども必要ではないか」といった指摘が出されていました。

県教委の山本仁志教育長は委員会後、取材に対して「必要なケアの実態に合わせて看護師を増やしてきたつもりだったが、十分な態勢だったのか、今回の原因を検討しなければならない。子どもたちに対しては申し訳ない気持ちであり1日も早く、通常通り再開させたい」と話していました。…などと伝えています。

△鳥取県議会総務教育常任委員会 6 / 8 録画放送 教育委員会部分は後半です

<http://www.pref.tottori.lg.jp/item/966563.htm#itemid966563>

*鳥取県養護学校の看護師一斉辞職問題、元日本海テレビアナの福浜議員が厳しい追及

IRORIO (イロリオ) 2015年06月09日

<http://irorio.jp/agatasei/20150609/235626/>

> 看護師は非常勤

鳥取県立鳥取養護学校で医療ケアを担う看護師6人が一斉に辞職した件が話題になっている。

報道によると、同学校には非常勤の看護師6人が在籍し、医療ケアの必要な生徒に対して処置を行っていたとのこと。

しかし保護者からの威圧的な言動があったことに加え、学校側などのフォロー体制が十分でなかったとして、先月末に辞職を申し出たとしている。

経緯と現在の状況

直接取材した情報もあるのか、メディアによって、やや報道内容に違いがある。鳥取県議会では、議会内容をインターネットで公開しているので、改めて議会録画を見てみた。

今回の件が取り上げられたのは、8日の総務教育常任委員会だ。まず足立特別支援教育課長や山本教育委員会教育長の発言から、経緯を並べてみる。

4月半ば：一部の保護者からの厳しい指摘が始まる

4～5月：保護者、教師、看護師などで話し合いの場が設けられる

5月22日：看護師全員が辞職を願い出る

24日：保護者会を開催し状況を説明

25日：臨時休校

26日：保護者の付き添いなどで一部登校再開

6月5日：保護者にケア協力をお願い

状況として、医療ケアを必要とする生徒は33人、現在、21人が登校中。

登校していない12人の内、入院中が3人、デイサービス利用が9人。デイサービス利用の9人中、希望する4人に対して、教師による訪問教育を行っているとのこと。

現場にしわ寄せが生じていた

報道によると、本来8人体制のところ、看護師は6人在籍していたとなっている。

しかし議会において「実質5人」とする発言があった。医療ケア以外の作業があっただろうし、看護師が病気などで休むこともあったはずで、「実質5人」が正しいのだろう。

議会発言で気になったのは、山本教育長の「鳥取県は（教育現場での）医療的ケアが全国的にも進んでいる」「（医療ケアの必要な生徒を）積極的に受け入れて学校でケア」の発言（録画では4:26:30辺りから）だ。

教育長の発言が、いくらか自慢げに感じたのは気のせいだろうか。

しかし現場の体制を整えないまま、医療ケアの必要な生徒を受け入れた状況があったらしく、看護師の聞き取り調査では、「医療的ケアの多い子供が増えて、看護師の体制が苦しかった」とする回答があったようだ。

看護師 6 人全員が「非常勤」であることも、十分な体制では無かったことが伺える。

つまり県上層部の医療ケアが進んでいるとする「見栄」へのしわ寄せが、現場、つまり看護師に来ていたのではないだろうか。

福浜隆宏議員の発言

こうしたやり取りの中、元日本海テレビのアナウンサーで、この 4 月に議員に当選したばかりの福浜隆宏議員から発言（録画では 4:32:45 辺りから）があった。

福浜議員のところに、5 月 23 日、当該看護師から直接の電話あったそうだ。

福浜議員によると、看護師が様子を見たいとの意向らしく、「(私は) 伏せているつもりだったが、(報道を受けて) 県教委から発表があったので」と前置きして、踏み込んだ発言をしている。

福浜議員の発言は、「保護者の方にもかなり問題があるように受け取らざるを得ないような発言かなり生命にも関わるような、非常に厳しい言い方」があったのではとする切り出した。

続いて具体的な様子として、「毎日のように、特定の看護師さんに対して、繰り返し同じようなこと、一挙手一投足、保護者の方が看護師をリードしながら『何でこんなことするの』とか『うちの子、殺す気』くらいの、そんな勢いで迫っていた」ことがあったらしい。

そうした保護者の言動にも関わらず、「周りの先生は見るしかない。止めることもしてくれなかった」状況があったとしている。

さらに「教員と看護師に溝を感じた」「看護師が非常勤であることから、言いたいことも言いにくい」ことを聞いたとして、「残念なことに、ボタンが掛け違いと言うか、ズレが生じてるんじゃないかな」と指摘している。

2 学期には再開したいとの考えだが

今後の見通しとして、鳥取県立中央病院などからの協力を得るなどして、今週中にも医療的ケアを再開する予定。同時に新たな看護師を募集することで、2 学期から通常の状態に戻したいとのこと。ただし問題となったであろう保護者に対しては、学校側の意向は伝えたものの返事は確認できていない、教育委員会との話し合いもできていない、と不安定な状況だ。

これでは中央病院の協力を得られても、新たな看護師を雇用しても、問題は続くのではないだろうか。

■鳥取県議会「総務教育常任委員会 平成 27 年 6 月 8 日」

<http://www.pref.tottori.lg.jp/item/966563.htm#itemid966563>

(記事で取り扱った内容は、4:13:45 から 4:40:35 まで)

…などと伝えています。

***「保護者厳しすぎ」養護学校の看護師全員が辞職願**

テレビ朝日 news 06/08 16:42 (動画)

http://news.tv-asahi.co.jp/news_society/articles/000052146.html

> 「特定の保護者からの厳しい言動」を理由に養護学校の看護師全員が辞職願です。先月下旬、鳥取県立鳥取養護学校に所属する30代から50代の女性看護師6人全員が一斉に辞職を申し出ました。看護師らは学校で医療的なケアを行っていますが、現在、対応できる職員がいないため、一部の児童・生徒らが通学できなくなっているということです。

看護師らは辞職の理由として、「特定の保護者から繰り返し厳しい言動がある」「学校側の改善も見受けられない」などと話し、県や学校側が対応を急いでいます。

…などと伝えています。

***鳥取養護学校：看護師全員が一斉に辞職**

毎日新聞 2015年06月08日

<http://mainichi.jp/select/news/20150609k0000m040100000c.html>

> 鳥取県立鳥取養護学校（鳥取市）で、医療的ケアを担う看護師が不在になり、ケアの必要な児童生徒9人が通学できなくなっていることが分かった。以前から要員不足の事情があり、ケアの一部が遅れたことを保護者から批判された看護師6人全員が、一斉に辞職を申し出た。県教委は看護師の配置や相談体制の不備を認め、後任の人材確保を急いでいる。

県教委が8日の県議会で報告した。同校には小学部から高等部までの児童生徒76人が在籍、うち33人がたんの吸引などのケアを必要とする。看護師6人は非常勤で、5月22日の授業終了後に全員が辞職の意向を伝えた。看護師の1人は、ケアが数分遅れたことについて、ある保護者から威圧的な言動を繰り返し受けたと訴え、他の5人も不安を募らせていたという。

医療的ケアの必要な児童・生徒は現在、保護者同伴で登校するか、校外のデイサービス施設で教員の訪問授業を受けている。施設を利用せず家庭訪問を希望しない児童生徒4、5人が授業を受けられない状態という。

野坂尚史校長は「本来は8人の看護師が必要。一刻も早く人材をを見つけたい」と話した。県教委は「医療的ケアを必要とする児童生徒が増え、看護師の体制が苦しかったとも聞いている。組織としての受け止めなどが不十分だった」と釈明。県看護協会などに派遣を要請中で、近く学校でのケアを再開する方針という。

…などと伝えています。

***養護学校で看護師全員が辞職願 「一部保護者から叱責」**

朝日新聞デジタル 2015年6月9日

<http://www.asahi.com/articles/ASH6866Y7H68PUUB01L.html>

> 鳥取市の鳥取県立鳥取養護学校（児童生徒76人）で看護師が不在になり、医療ケアが必要な児童生徒の一部が通学できなくなっている。8日の県議会総務教育常任委員会で報告された。

県教委特別支援教育課によると、非常勤の看護師6人全員が5月22日に辞職願を提出した。この影響で、医療ケアが必要な児童生徒33人のうち、保護者が付き添える児童生徒だけが登校し、

8日時点で12人が登校できなくなっている。

看護師側は「ケアの必要な子が増えて負担が増していたが、学校側の配慮がなかった」ことなどを辞職理由に挙げているという。たんの吸引などが決められた時間より遅くなった時などに、一部の保護者から厳しい叱責（しっせき）を繰り返し受けることもあったという。

県教委は保護者や看護師からの要望を受け止める学校側の体制が不十分だったと説明。近く県立病院などから看護師3人の派遣を受けるとともに、不足分の看護師の募集を続ける。

…などと伝えています。

*看護師6人一斉辞職 鳥取の養護学校 生徒10人通学できず

産経ニュース 2015.6.8

<http://www.sankei.com/west/news/150608/wst1506080071-n1.html>

> 鳥取県立鳥取養護学校（鳥取市）の看護師6人全員が、校内で行う医学的ケアに対し保護者から批判を受けたことを理由に5月末に一斉辞職し、一部児童・生徒が通学できなくなっていることが8日、県への取材で分かった。

県によると、6人はいずれも非常勤。10人程度の子供が通学できておらず、県は近隣の病院に看護師派遣を依頼し、今週中にケアを再開する予定だ。8人程度が必要だとして確保を進める。同校では、全児童・生徒約70人のうち約30人に、たんの吸引や経管栄養法などのケアが必要。保護者からは、吸引時間の遅れや点滴の位置などに関し批判の声が寄せられていたという。

通学できない子供には在宅学習や、福祉施設に預かってもらい対応。求めがあれば、教員を自宅に派遣している。

…などと伝えています。

※鳥取県立鳥取養護学校

<http://cmsweb2.torikyo.ed.jp/toriyo-s/>

※鳥取県教育委員会特別支援教育課

<http://www.pref.tottori.lg.jp/tokubetushien/>

※文部科学省…

・平成26年度特別支援学校等の医療的ケアに関する調査結果について（H26年5月1日現在）

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1356215.htm

・平成26年度特別支援学校等の医療的ケアに関する調査結果について

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/_icsFiles/afiedfile/2015/03/27/1356215_1.pdf

では。医療的ケアを必要としている幼児児童生徒が在学している学校 鳥取県（総数表示ですが）

・認定特定行為業務従事者（教員、教員以外）0名・看護師配置学校数4校・配置されている看護師数12名

…と、なっています。

そこで今回の報道を読んでいくつか疑問が、みなさんはどうですか？

↑↑*「医療的ケア」も教育という視点がそもそも県教委の姿勢にないのでは？

子供たちの教育権保障の視点、ご家族の生活権保障の視点など抜けているのでは？

*県教委としての教員への第3号研修はおこなっていないんでしょうかね？

- *学校看護師の県教委としての定期的な研修や相談体制は？
県教委としての医ケア委員会の設置や運営体制などは？
 - *校内での保護者や教員や校医（主治医）を交えた研修や相談体制は？
医ケア委員会などの設置や運営体制などは？
 - *学校看護師の労働条件や雇用形態など身分保障は？
他支援学校看護師との共同研修や交流などは？
- …などどうなっているのか凄く気になるニュースでした。
 …6/21 シンポジウムでも縦横無尽に各地からのお話が聞けたら幸いです。
 皆様のご参加心からお待ちしております。_(._)_
- *医ケアネット主催：シンポジウムのご案内
 - シンポジウム●「当事者の声を聞く」～第3号研修がひろげる暮らし～
医ケアネットHP 最新情報6/8付部分 に詳細が掲載されています。
<http://www.mcnet.or.jp/index.shtml>

☆鳥取養護学校に看護師派遣へ

NHKニュース 鳥取放送局 06月09日 09時24分（動画）

<http://www3.nhk.or.jp/news/tottori/4045391171.html?t=1433828328278>

> 医療的なケアを行う看護師全員が一斉に辞職したため鳥取養護学校に通う一部の子どもたちが、登校できなくなっている問題で、替わりの看護師が派遣されることが決まり、11日から、登校できなくなっている子どもたちも再び登校できる見通しとなりました。

鳥取養護学校には、たんの吸引など医療的なケアが必要な児童・生徒が通っていますが、6人いた看護師全員が、保護者から非常に厳しい指摘を繰り返し受けたことなどを理由に、一斉に辞職したため、先月下旬からおよそ10人の子どもたちが登校できなくなっています。

このため、県教育委員会で対応を話し合った結果、11日から県立中央病院などで働く看護師を3人から4人程度派遣してもらうことが決まり、登校できなくなっている子どもたちも再び登校できる見通しとなりました。

しかし、必要とされる6人には、まだ足りないため、県教育委員会では、ケアが可能な保護者には、引き続きケアを依頼するほか、新たな看護師も募集しています。

県教育委員会では、「1日も早く学校を通常通り運営できるよう、保護者の要望を聞く態勢や看護師が安心して働ける職場環境の整備も含めて、対応を急ぎたい」としています。

…などと伝えています。

*として県教委は対応するようですが、同じような問題が起こる可能性があります。学校看護師だけに医療ケア対応を任せるのではなく、学校あげての対応、教員への第3号研修など根本的な対策をたてないとダメなんでは。保護者の付き添い、スクールバス乗車、寄宿舎入舎、郊外学習・修学旅行、などの参加、週末・長期休業中の課題なども含め全国的な課題とあわせた抜本的な課題と併せて教育委員会の姿勢と責務が問われているのではないのでしょうか。

☆鳥取養護学校：看護師不在 県議会委、県教委の対応に批判 4、5人授業受けられず／鳥取
毎日新聞 2015年06月09日 地方版

<http://mainichi.jp/edu/news/20150609ddlk31100532000c.html>

> ◇教育長「体制整備へ」

県立鳥取養護学校（鳥取市江津）で医療的ケアを行う看護師が5月25日から不在となっていることが8日、分かった。県議会の総務教育常任委員会で県教委が報告したが、看護師6人が一斉に辞職する理由となった保護者のクレームが4月中旬から学校に寄せられていたことも判明。県教委の対応に議員からは厳しい質問や指摘が相次ぎ、山本仁志教育長は「ご迷惑をかけたことをおわび申し上げたい。同じことが起こってはいけないので、アドバイザーの意見を聞きながら体制を整備したい」などと釈明した。

県教委などによると、6人の看護師は30代～50代の女性で、▽6時間2人▽5時間2人▽3時間1人の5人体制でローテーションを組んで児童生徒のケアに当たっていた。5月22日、6人全員が辞職を申し出たため、学校や県教委が聞き取りを開始。ケアが所定時刻に最大で8分遅れたことや手順について1人が保護者から厳しい叱責を受けたという。

学校は同24日、臨時の保護者説明会を開いて経緯を報告。同25日は休校として訪問授業などの体制を整えたが、現在も4～5人の児童生徒が授業を受けられない状況が続いている。県教委は「保護者と看護師の間の認識のずれもあったのではないかと。看護師の増員も含めて対策を講じる必要がある」とした。

県教委は「他県では自宅で訪問看護を受けながら教員が訪問授業をすることが多いが、県では積極的に学校に受け入れ、看護師を配置してきた」「鳥取養護学校では近年、ケアが必要な子供が急増し、必要な人員を確保しているつもりだった」などとも主張したが、「看護師6人がチームで働ける体制だったかには課題があったと認識している」と認めた。「医療的ケアを必要とする児童生徒が増え、看護師の体制が苦しかったとも聞いている。組織としての受け止めなどが不十分だった」とも釈明。県看護協会などに派遣を要請中で、近く学校でのケアを再開する方針という。

一方、委員会では、叱責をした保護者が4月中旬から教員の対応や学校の環境整備などについても要望や指摘を重ね、同月下旬からは県教委にも不満の声を寄せていたことも報告された。5月には2回、県教委、学校、保護者で話し合ったといい、議員の一人は「保護者の納得は得られたのか」と質問。県教委は「一般的に保護者の思いには沿うべきだが、医療的ケアは医師の指示のもと看護師が実施する。保護者とは十分な意思疎通ができていないので引き続き努力する」と回答した。

また、一般的な保護者対応への質問も出され、県教委は「学校としてチームで対応してくださいと話していたが、マニュアルまではない」と回答。議員からは「6人が一緒に辞職するのは尋常ではない。看護師の補充だけで、どうにかなる話ではない」との指摘も出た。
…などと伝えています。